



Japan-IAEA Joint Nuclear Energy Management School

世界各国の将来の原子力エネルギー計画を策定・管理するリーダーとなる人材の育成を目的とした標記スクールを開催する。同スクールの開催(東京及び東海村)は、H24年度、H25年度に引続き、3回目となる。

日本開催の意義：

- ・将来の世界の原子力関係リーダー間の人的ネットワーク構築
- ・国内人材の国際化
- ・東電福島原発事故からの教訓を将来のリーダーに伝える良い機会

開催期間：H26年6月9日(月)～6月26日(木)(約3週間)

6/09(月)～6/17(火) 東京都文京区本郷 東京大学山上会館

6/18(水)～6/23(月) 東海村 いばらき量子ビーム研究センター

6/24(火)～6/26(木) 東京都文京区本郷 東京大学山上会館

対 象：将来の原子力界で活躍する若手の研究者、技術者、広報担当者、行政関係者、規制関係者等(年齢35歳くらいまで、大学院生を含む)

参加者：40人程度のうち概ね半数がアジアの新規導入国等を中心とした外国人

内 容：原子力関連の様々な領域(特にマネジメント関連)の講演及び討論、並びに施設見学(使用言語は全て英語)

実施体制：主催 原子力人材育成ネットワーク、東京大学大学院工学系研究科原子力専攻
日本原子力研究開発機構、日本原子力産業協会、原子力国際協力センター
共催 IAEA(国際原子力機関)

H26年度カリキュラムの概要

東京会場：東京大学山上会館 ＜講義・講演等中心＞	東海村会場：いばらき量子ビーム研究センター ＜グループワーク・施設見学等中心＞
導入講義(スクールの意義等)	試験研究炉・放射線施設の役割
原子力エネルギー計画	人材育成と知識管理
核不拡散の国際的枠組	核セキュリティと核物質防護
原子力発電プロジェクト	燃料サイクルと廃棄物管理
安全原則と放射線リスク管理	施設見学
グループワーク・修了試験	グループワーク



H25年度開講式 於東京大学(H25年5月27日)

外国人研修生 17名(年令27～43)
 バングラデシュ、中国(2名)
 エジプト、ヨルダン、リトアニア
 ナイジェリア、インドネシア
 マレーシア、スーダン、タイ
 ベトナム(5名)、米国

日本人研修生 14名
 (年令26～38)

内訳 原子力機構3名
 メーカ5名、電力6名

内訳 官公庁8名、研究所3名、
 メーカ1名、電力3名、大学2名